

平成18年3月5日

登米地域AMC

## ARDF用アンテナ製作補足説明書

1 部材は全て加工済みです。今回の製作会では組み立てだけを行いますので、製作マニュアルの6ページ以降を参照して下さい。

2 マニュアルP.64の(1)部分の前に・・・

塩ビ管VP-20(一番太いパイプで長さ1mのもの)は、給水栓ソケットVS-20を取り付ける前に、モービルへの取り付け方法を考慮して長さを決め切断して下さい。なお、長さは最低でも50cmは必要です。

3 マニュアルP.64の(2)部分・・・

塩ビ管の固定には接着剤を併用します。また、ソケットの締め付けには工具が必要です。

注意：取り付け部分には若干遊びがあります。無造作に固定するとセンターずれとなる場合があります。

位置はできるだけボックスの中心になるように注意して固定して下さい。

4 マニュアルP.74の(5)部分・・・

スペーサーとしてスポンジを準備しました。適当な大きさに切ってケーブルに巻きつけ、ビニールテープで固定して下さい。

5 マニュアルP.74の(9)部分・・・

LANケーブルの線・4対の順番は、時計回りで①青、②橙、③緑、④茶となります。

6 マニュアルP.84の(11)部分・・・

今回は省略します。後でコーキング材や接着剤で固定する方は(16)の取り付けはしないで持ち帰り下さい。

7 マニュアルP.8~94の(16)部分・・・

露出用丸型ボックスの上蓋は2箇所をネジで固定するようになっていますが、さらに2箇所追加可能です。標準状態では取り付け強度に不安がありますので追加した方がよいと思われる。(今回のキットでは準備していませんので各自で対処して下さい。)

8 マニュアルP.94の(19)部分・・・

ネジの締め付けの際、基板に力がかからないようくれぐれも注意して下さい。心配な方はダイオードの取り付けを後回しにして下さい。(ダイオードが壊れやすいため)

## 9 マニュアル P.9 4の(20)部分・・・

導波器の中央部にある継手チーズ T-13 にはナンバーが振ってあります。導波器を露出用丸型ボックスに取り付ける際は、継手チーズのナンバーと LAN ケーブルの色を下記のように対応させて下さい。また、接着剤を付けてパイプを押し込む際は、継手チーズ T-13 部分に片割れの T-13 をあてがい、元の形状にした上で作業するとよいです。この時、導波器の上下を取り違えないよう注意して下さい。ダイオードの黒い線がある方が上側です。

\* 時計回りに→

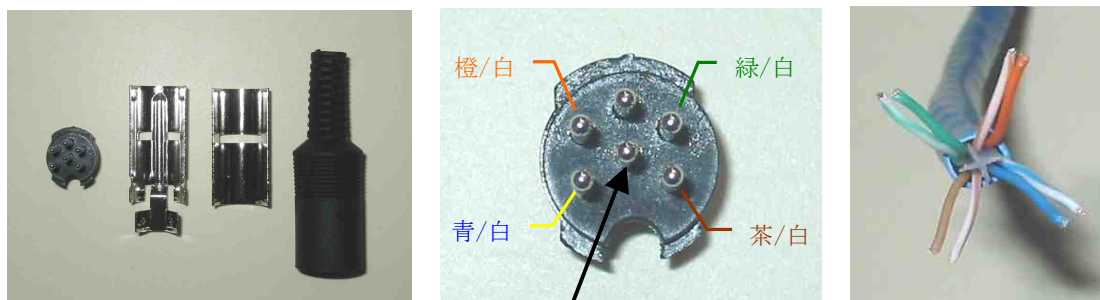
継手チーズのナンバー	○-1	○-2	○-3	○-4
LANケーブルの色	青	橙	緑	茶

## 10 マニュアル P.10~11 4の(21)部分・・・

説明後段の「どの線をどの場所に接続したか分かるようにしておいて下さい。」は、今回は不要です。

## 11 Dinプラグへの配線

LANケーブルの先端に6ピンのDinプラグを取り付けますが、その際は下記のように配線して下さい。(Dinプラグは、マニュアルの部品表では8ピンとなっていますが、6ピンに変更しました。)



青・橙・緑・茶の4本を  
まとめて接続する。

\* 上中央のコネクタの写真は、半田  
付けする側から見たものです。

